

はじめに

本学の FD 活動は、2008（平成 20）年度の FD・自己点検委員会において始まり、いくつかの委員会組織の改変を経て、現在は FD 委員会が担っている。本学は、これまで FD 活動として、授業評価・教育評価アンケート（2008（平成 20）年度～）、FD 講演会・研修会（2009（平成 21）年度～）、オープンクラス（2011（平成 23）年度～）などを実施し、授業内容や方法の改善に組織的に取り組んできた。今年度もこれまでの活動を引き継ぐ形で行った。主な実施内容は以下の通りである。

1. 「学生による授業評価アンケート」は昨年度と同様の形式で実施した。新たな試みとして、今年度から各授業の集計結果を学内で公開し、学生や教職員が閲覧できるようにした。
2. 「大学院生による教育評価アンケート」は、昨年度からの大きな変更点はなかった。
3. 「FD 研修会」は、昨年度と同様に複数の研修会のうち、教員の興味や時間の都合によっていずれかに参加する形で 6 月に 3 回実施した。内容は「大学院 FD」「学生 FD」「アクティブ・ラーニング」であった。
4. 「オープンクラス」は、オープンクラス・ウィークとして前期は 2 週間実施したが、期間延長の要望があったため、後期は 3 週間実施した。
5. 「全学 FD 教員研修会」は、昨年度に引き続き外部講師を招く形で「アクティブ・ラーニング」のスキルについて学んだ。

今年度の FD 活動の中で評価できる点は、大学院 FD に関する研修会を実施できたことである。2015（平成 27）年度「点検・評価報告書」において、研究科独自の教育内容・方法等改善のための研修の機会を設けていないことが改善すべき点として挙げられており、今回、研究科ごとに教育内容や学習環境における課題を議論して、教員間で共有できたことは有意義であった。今後も、点検・評価から出てきた課題を解決する研修を行う、といったように PDCA サイクルをうまく働かせるような仕組みを構築していくことが求められるであろう。

小規模大学である本学のリソースは限られているため、十分な教育改善のための活動は行えていないのが現状であるが、本報告書をご覧いただき、本学の FD 活動に関してお気づきの点があれば、忌憚のない意見を頂戴できれば幸いである。

2016（平成 28）年 3 月

京都ノートルダム女子大学

FD 委員会 委員長 廣瀬 直哉